

# 学校経営推進費事業計画書

## 1. 事業計画の概要

学校名	YMCA 学院高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	健康に不安をもつ生徒へのヘルスケアを通じた中途退学率の減少
計画名	『誰もが学びをあきらめない』 ～Spirit（精神）・Mind（知性）・Body（身体）を育むヘルスケアの実践～

## 2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 生徒理解を深め、生徒一人ひとりに添った生徒支援を実現する。 (2) 専門家や外部との連携を積極的に行う。</p> <p>3 確実な進路補償の仕組みを作る。 (1) 学び直しができる仕組みを整え、進路に向き合う力を育成する。</p> <p>4 開かれた学校づくりをし、生徒が活躍できる場を増やす。 (2) 生徒が主体的に関わるスクーリングや特別活動を実施する。またボランティアや生徒間交流の機会を提供する。</p> <p>5 持続可能な学校とするための体制を確立させる。 (1) 社会の大きな変革の中で、新しい学校の形を探究し、社会に貢献できる学校をめざす。</p>
事業目標	<p>『誰もが学びをあきらめないためのヘルスケアの実践』に向けた取組み目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ こころのケア（Spiritの涵養）：自分の在り方を見つめ、他者と関わる力をつける体験学習を中心としたスクーリングを実施し、人格形成や自己効力感の向上をめざします。</li> <li>■ 学びのケア（Mindの涵養）：レポートサポートをより充実させ、YMCA 学院高校のオリジナルメディア利用学習課題を新たに作成し、遠隔授業を実施、通学が困難な生徒を含めた、誰もが学びを継続できる取組みを行います。</li> <li>■ からだのケア（Bodyの涵養）：定期的な健康講座（オンライン実習含む）の実施や歩数や筋力測定によって、生徒が自分の体調を客観的に把握し、基礎体力をつけます。また生徒が相互に支えあえる関係を構築することによって、実習が継続できるような仕組みをつくります。</li> </ul> <p>上記を踏まえて、具体的な取り組み（「わいわいカフェ」・親と子のサポートグループや、医療（関西医科大学）や福祉（公益財団法人大阪 YMCA）との連携によるチームでのヘルスケア実践、進路支援等）を実践。その結果学びをあきらめず、未来に希望を抱き、人と人とのつながりを大切する「ひとづくり」を行います。</p> <p>さらに、生徒自身がボランティア活動を通して「自己効力感」を感じられるようになることをめざします。</p> <p>また人材育成のプロセスや成果について HP での公表や学会発表を通じて社会への還元を果たします。</p>
取組みの 整備する 設備 ・物品	<p>(M・B) パソコン、プロジェクター、プロジェクター天吊金具、ウレタンマット、折り畳み長机（低床）、</p> <p>(B) 液晶ディスプレイ、ビデオカメラ、三脚</p> <p>(B・S) ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ）、統計ソフト SPSS、 (※S・M・Bは Spirit ; Mind ; Body の頭文字。その取組みで使用)</p>

<p style="text-align: center;">概要</p>	<p>取組内容</p>	<p>前年度</p>	<p>(Spirit) カウンセリング・教育相談体制の見直し。事例収集、評価。「わいわいカフェ」のボランティア養成。個別の支援体制検討。健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい</p> <p>(Mind) レポートサポート・学びなおし講座実施。進学サポート。</p> <p>(Body) オンライン健康講座・ハイキング。</p> <p>(そのほか) 連携機関の選定(関西医科大学・公益財団法人大阪 YMCA・大阪総合教育支援研究所)。医師の講演会準備。教職員研修(OD、ユニバーサルデザインラーニング(UDL)、発達障がい理解)の実施。専門家とのヘルスケアの進め方会議の実施。日本 LD 学会発表。</p>
		<p>初年度</p>	<p style="text-align: center;">(※文末の S・M・B はそれぞれ Spirit ; Mind ; Body の頭文字をさします)</p> <p><b>【前年度からの取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員(担任)生徒支援会議(4月～8月・10月～2月) S・M・B</li> <li>・ 医師によるヘルスケアに関する講演会の実施(5月) S・B</li> <li>・ サポートグループ的グループワークの実施(健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい)(5月・11月) S・B</li> <li>・ 自然の中のハイキングとワークを組み込んだ「五感で自然を感じよう」スクーリングの実施(6月)</li> </ul> <p><b>【新たな取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携機関(関西医科大学小児科学講座・公益財団法人大阪 YMCA)とケース会議の実施(4月以降定期的に実施) S・B</li> <li>・ 月平均の歩数測定の開始(6月以降毎月) B</li> <li>・ ウェラブルデバイス(スマートウォッチ)使用開始。健康講座によるストレス減少を確認し動機づけとする。 S・B</li> <li>・ 健康講座(オンライン実習)(前期:6～9月後期:12～3月計27回実施) ※昨年度10回。内容を充実させる。 S・B</li> <li>・ チャリティーラン(リアル活動)(9月・3月) S・B</li> <li>・ NPO 法人 D×P「クレッシェンド」と連携しグループワークを実施(自己理解・進路支援)(12月) S</li> <li>・ 生徒・保護者の満足度アンケート実施(9月・3月) S・M・B</li> <li>・ 下肢筋力測定(9月・3月) B</li> <li>・ 歩数分析結果の取りまとめ、次年度への課題抽出、次年度のヘルスケア計画策定(2月) S・B</li> <li>・ 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析(9月・3月) ※ベースラインの測定 S</li> </ul> <p>&lt;通年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の関係・居場所づくり「わいわいカフェ」の開催 ※夕方開催 SMB・希望者にスタディサプリを導入し、教員と生徒間の指導を実施 M</li> <li>・ カウンセリング・教育相談 S</li> <li>・ 大阪総合教育支援研究所との連携した教員養成を実施・臨床心理士による教員向け傾聴トレーニングを実施。 S・M・B</li> <li>・ HP に実践事例発信。 S・M・B</li> <li>・ 15時開始の学びなおし講座・レポートサポートを実施。 M</li> <li>・ 進学に向けた自学自習の場「進学サポート」(英・国) ※夕方開催 M</li> </ul>
		<p>2年め</p>	<p><b>【これまで通りの取組み】</b> : 初年度の欄を参照</p> <p><b>【新たな取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリジナルメディア学習課題の作成・実施(1年次生5月～8月・10月～12月) M</li> <li>・ 健康講座で生徒同士が互いの取組みを継続し、関係性を深めるためピアサポートアプリの導入・健康講座回数増(6月～8月・12月～2月) S・B</li> <li>・ コミュニケーション系講座を中心とする体験学習(総合科目)実施(8月・2月) S・M・B</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施（8月・1月）S・M・B</li> </ul> <p>&lt;通年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者にスタディサプリを導入し、学習促進を促す個別コーチングを実施 M</li> <li>・研修を受けた担任による傾聴を通じた面談の実施（希望者、毎月）S・M・B</li> </ul>
	3年め	<p>【これまで通りの取組み】：初年度と2年めの欄を参照</p> <p>【新たな取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルメディア学習課題の実施（1・2年次生5月～8月・10月～12月）M</li> <li>・宿泊研修（8月）S・M・B</li> <li>・生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析（9月・3月）S</li> </ul> <p>&lt;通年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・YMCA 事業所と連携したボランティア活動を通じた対人支援の実施（希望者）S・M・B</li> <li>・生徒の体力・自己効力感に関する研究結果発表（HP/学会）S・M・B</li> </ul>
	取組みの 主担 ・実施者	<p>主担： 生徒支援部会（教頭、主任、カウンセラー（臨床心理士）・特別支援教育コーディネーター、養護教諭、教員、アドバイザー）</p> <p>取組みの実施者： 全教員</p> <p>連携者： 公益財団法人大阪 YMCA・関西医科大学小児科学講座・大阪総合教育支援研究所</p>
成果の 検証方法 と 評価指標	初年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 単位修得率（修得単位数÷登録単位数）89%以上（R2年度後期 87.7%）</li> <li>② 中途退学率（年度退学転出者÷（年度末在籍者+年度退学転出者+前期卒業生））（R1・R2年度平均 4.67%）4.5%以下（M）</li> <li>③ 下肢筋力測定（CS-30）の目標を28回に設定。各個人の初回測定から5%増。</li> <li>④ 歩数測定で8000歩を目標値とし、初回測定の5%増。（B）</li> <li>⑤ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均5人以上。（S）</li> </ol>
	2年め	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 単位修得率90%以上中途退学率4.3%以下。（M）</li> <li>② 下肢筋力測定（CS-30）について各個人の初回測定から10%増。</li> <li>③ 歩数測定で、初回測定から10%増。（B）</li> <li>④ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均6人以上。</li> <li>⑤ 保護者・生徒アンケート（4段階評価）で肯定的評価を80%以上。</li> <li>⑥ 関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証。（S）</li> </ol>
	3年め	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 単位修得率91%以上中途退学率4.1%以下。（M）</li> <li>② 下肢筋力測定（CS-30）について各個人の初回測定から20%増。</li> <li>③ 歩数測定で、初回測定から20%増。（B）</li> <li>④ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均7人以上。</li> <li>⑤ 保護者・生徒アンケート（4段階評価）で肯定的評価を85%以上。関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証（前年度比）。（S）</li> <li>⑥ 宿泊研修に15人以上参加する。（S・M・B）</li> </ol>